

東日本大震災

久里浜医療支援

こころのケアチーム

第1班報告

厚生労働省および岩手県からの要請を受け、久里浜アルコール症センターでは、医療支援チームを岩手県大船渡市に送り、現地の人々の主に「こころのケア」を担当しています。

1チームは、医師、看護師、ソーシャルワーカーまたは臨床心理士、事務の4名からなり、第1班が3月24日から29日まで現地で活動を行いました。以後、4月26日まで、8チームを順次送り、現地で被災した方々のこころのケアにあたります。

ここに展示している写真は、第1班が記録した現地の様子と活動の一部です。当センターにおいでの皆様が、現地の様子を理解する一助になれば幸甚です。

被災した 大船渡市全景

今回の災害は、まさしく町を襲った津波によるものです。津波は左の写真の湾を囲む全域に及んでいます。



大船渡市中心地

右の写真の中央部分に津波に押し流された区域があります。中央にある屋根が緑のスーパーマーケットの屋上から人々が救出される状況が何度も放映されました。



大船渡地区の瓦礫の山

右の写真は大船渡地区の国道45号線から海側に広がる瓦礫です。車で移動していると、このような風景が突然現れます。



大きな船が海岸から数百メートルも押し流されており、津波の力に圧倒されます。

1日の活動スケジュール

午前6時
水沢の宿泊地出発

午前8時15分から15分程度
他の応援保健師チームとミーティング
(大船渡保健所)

午前8時30分
出発
避難所での一般診療 + こころのケア活動
避難所でのリエゾン診療
一般家庭への往診

午後5時15分～6時
他の応援保健師チームとのミーティング
午後6時～7時
他の医療チーム・保健師チームとの合同ミーティング
(大船渡市役所)

午後7時
水沢へ帰還



毎日、水沢と大船渡の往復です。片道約70Kmにもなります。峠を3つ越えますが、毎日のように雪が降っていました。

他の応援保健師チームとの合同ミーティング



毎日、朝、夕に外から来ている応援保健師チームとミーティングを持ちます。この部屋にいる保健師は、秋田、沖縄、岡山、岩手県奥州市からきています。

久里浜医療チームの活動 拠点の一つ、大船渡中学校

避難所は狭く環境は劣悪です。しかし、被災者は助けあって生活しています。





大船渡中学校体育館での診療

燃料節約で昼はストーブを消すので、とにかく寒いです。

一緒に活動した岡山県の保健師チームと
皆さん献身的でした。



赤崎地区の重油 まみれの瓦礫



近くのセメント工場が津波に襲われ、重油が流出して、この地域一帯が重油で汚染されています。

赤崎・末崎地区での往診

交通手段やお金がなくて(津波で流された)医療機関にか
かれない人もたくさんいます。



新しいチームが加わって 応援保健師チームとの 合同朝ミーティング

3月28日に久里浜の第2班が到着し、翌29日の合同ミーティングの様子です。



陸前高田市の惨状

隣の陸前高田市を訪れましたが、あまりのひどい状況に絶句してしまいました。右の写真のように、地盤は沈下し、数キロにもわたり、津波にすべてを持ち去られた痕が残っていました。この町は本当に再生できるのだろうか、と思ってしまうほどです。



久里浜チーム の構成 4月26日まで

医: 医師
看: 看護師
ソ: ソーシャルワーカー
心: 臨床心理士
事: 事務職

第1班: 3月24日～3月29日(5泊6日)
樋口 進(医), 森住亮二(看), 松本文彦(看), 森 秀明(事)

第2班: 3月28日～4月2日
松下幸生(医), 塘 祐樹(看), 藤田さかえ(ソ), 渡邊一人(事)

第3班: 4月1日～4月6日
山本哲也(医), 越野仁美(看), 野村祥平(ソ), 府川良治(事)

第4班: 4月5日～4月10日
真栄里 仁(医), 中島百合(看), 桑田美子(心), 秋山宏治(事)

第5班: 4月9日～4月14日
西岡直也(医), 山本 史(看), 前園真毅(ソ), 山口英世(事)

第6班: 4月13日～4月18日
中山秀紀(医), 斎藤みどり(看), 岩本亜希子(ソ), 牧 賢樹(事)

第7班: 4月17日～4月22日
米田順一(医), 波島正子(看), 三原聡子(心), 柳沢純一(事)

第8班: 4月21日～26日
中山寿一(医), 雪下律子(看), 小川佳子(心), 長塚敏郎(事)